

ぶらり

なんたん 17

～るり溪(京都府立るり溪自然公園)～

るりの溪谷を歩き、自然の尊厳を実感

国指定の名勝「るり溪」。その美しさは、さながら「るり」(紫色を帯びた紺色の宝石)のようだと、明治時代に船井郡長が命名したといわれています。

標高五百以上の通天湖から注ぎ込む清流沿いには、約四キロの溪流歩道があります。「るり溪十二勝」をはじめ、風情ある数々の岩や滝を見ながら、約一時間半の散策が楽しめます。

① 鳴瀑(めいばく)
滝の裏が空洞で音が鳴る。環境省の「残したい」日本の音風景百選にも選ばれた、るり溪の顔ともいえる名勝地。

② 錦繡巖(きんしゅうがん)
紅葉の季節には錦の縫い取りをしたように彩られる岩山。



▲水の玉がすだれのような水晶簾



▲清流に沿って石畳が続く溪流歩道

③ 蝶蝮泉(たいとうせん)
滝の水しぶきで虹ができる泉。

④ 双龍淵(そうりゅうえん)
雌雄の二龍が水中に泳ぐほど深いふち。

⑤ 玉走盤(ぎよくそうばん)
まるで盤上を転がる玉のように岩の上を水が流れる。

⑥ 水晶簾(すいしようれん)
滝の落ちる様子が水晶のすだれのように美しい。

⑦ 会仙巖(かいせんがん)
仙人が集まり滝に杯を流して曲水の宴を楽しんだという。



▲ゆったりと豊かな水をたたえる通天湖

ろにある湖という意味で、るり溪最上流の湖。
溪流歩道には各所に絶景を臨む休憩所もあり、散策コースの始点と終点には駐車場やトイレも完備されています。
せせらぎに鳥や虫の音が重なり、四季折々に彩られる自然の雄大さを全身で感じるには、夏から秋にかけてが絶好の季節です。
清流のきらめきに目を細め、澄みきった空気と緑の安らぎに包まれると、失われつつある自然への尊厳の念が呼び覚まされます。

